術後の痛みより少なく

子宮筋腫 ロボット手術可能に

しあわせ広場

子宮筋腫で苦しんでいる女性に朗報です。子宮筋腫などの良性疾患に対する子宮摘出手術が、ロボットで行えるようになりました。子宮筋腫に対する最も体の負担の少ない手術方法は、これまでは腹腔鏡でした。県立病院では、二〇二二年一月からロボット支援下子宮摘出術を行っています。

■ロボット支援下子宮全摘術とは

手術は、ロボット使用のライセンスを持った産婦人科医師が行います。患者さんの腹部に、ロボット本体から伸びた四本のアームが装着され手術が開始されます。執刀医師は患者さんから少し離れた場所で、患者さんのおなかの中の3D画像を見ながら指先を動かします。執刀医師の指先の動きのとおりにロボットアーム先端の鉗子が動き、手術を行います。

■ロボット手術のメリット

開腹手術と比べ、術中の出血は明らかに減ります。ロボット手術では、肉眼では確認しづらい小さな血管も立体的に拡大して見ることができます。また、人間の手よりも繊細で複雑な動きが可能なロボットアームにより、腹腔鏡下手術と同等かそれ以上に出血を減らすことができます。

術後の痛みはどうでしょうか。痛みの大部分は、おなかを切った部分の痛みです。腹部を十五センチ前後切開する開腹手術との比較では、ロボットの方が明らかに痛みはありません。ロボット手術では、おなかの四、五カ所に八ミリの小さい穴を開けるだけなので、術後の痛みが少なく、手術の翌日には歩くことが可能です。

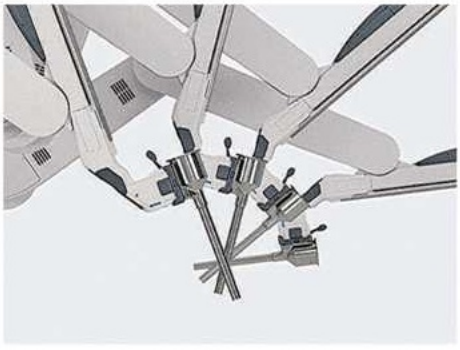
腹腔鏡手術との比較ではどうでしょうか。腹腔鏡手術でも、おなかに五～十ミリの穴を数カ所設けて手術を行うことは同じです。しかし、腹腔鏡手術ではおなかに空けた穴が鉗子の動きに引っ張られて動くのに対し、ロボット手術ではおなかの穴はコンピューター制御によって常に一点に固定されます。このためロボット手術後の痛みは、より少ない印象です。

術中の出血が減り、術後の痛みも小さくなったおかげで、早期回復が実現し、術後三日目の退院も可能となりました。ロボット先進国の米国では、子宮摘出手術の八割以上がロボット支援下で行われています。ロボット手術のメリットは、一言で言えば「患者さんの体にやさしい手術」です。

■婦人科の病気とロボット手術

子宮筋腫など良性疾患で子宮を摘出する場合以外に、ロボットが有用な手術は何でしょうか。二二年七月現在で、保険診療で認められている婦人科のロボット手術は、骨盤臓器脱（子宮脱）に対する仙骨膣固定術と、子宮体がんに対する子宮悪性腫瘍手術です。どちらも、深くて狭い骨盤内で繊細な技術が求められる手術であり、ロボット手術は有用であることが報告されています。県立病院でも今後、これらの疾患に対するロボット手術を行っていく予定です。

（県立病院）



上4本のロボットアームを患者さんに装着し、手術を行う
下ロボット手術では、おなかの穴は1点に固定されて動かないため、体の負担が小さい
＝いずれも©Intuitive Surgical